

園だより 6月

わが子よ、父の諭しに聞き従え。母の教えをおろそかにするな。

箴言 1章 8節

夏を思わせるような暑い日、恵みの雨の肌寒い日、天候に変化があった5月の日々でしたが、どの学年の親子遠足の日も天候に恵まれ、お弁当も楽しめた一日に、コロナ禍に対する変わらない基本的な感染対策は必須ですが、より様々な活動が行える今年度の良い兆しを感じております。

新年度ならではのどこか心揺れる子どもたちの心持ちが感じられていた4月の日々を過ごし、それぞれのペースで動き出し新緑の中過ごした5月の日々は、子どもたち一人ひとりに躍動を感じました。朝、私がまだ朝の挨拶の為に園庭門前で登園してくるお家の方と子どもたちを迎えているとき、すでに裸足になり園庭を走る年少組の子どもたち数名。目を輝かせにこにこ「まだお友だちくるの？」と私に話しかけながら、おもちゃも広がっておらず、人もあまり居ない園庭のひとつときを楽しんでいます。子どもたちの登園がほぼ終わり園庭門のカギもかけられ、沢山の子どもたちが其処此処で思い思いに遊び始めるころになると、異年齢の子どもたちならではの、そして始まって2ヶ月余りだからこそその関わり合いの姿が見られる様になります。年少組の子どもたちは年中組・年長組の子どもたちがしているどんな遊びにも興味津々。出来ることならすぐにも一緒にやりたい！加わりたい！そんな気持ちが溢れ体は前のめりです。その見て取れる様子に、どうしようと思案する年中・長組の子どもたち。もし「入っていいよ」と言ったらそのときから予測の付かない遊びを展開するに違いないパワフルな小さい子たち、想いを伝えても言葉では中々伝わらないことはこのふた月の様子で分かっている、さて自分たちがイメージする遊びに加えるかどうか・・・、そのときそのときに迷い葛藤する様子、または断固阻止する様子、与えていただいている恵みの「とき」に感謝をしながら、異年齢同士の関り、やり取りをどの保育者も注意深く見守っています。

様々な想いを廻らし、お互いの想いを感じ合い、それぞれの伝え方で伝え合いながら遊び込む。想いが十分に通ることもあれば、通らないこともある。その体験から育まれる人間力。幼稚園という小さな社会だからこそその経験のときです。今月も6月ならではの様々な関りの中、想いを感じ合い過ごして参りたいと願います。宜しく願申し上げます。

園長 駿河 幸子